

第8回読売防犯川柳コンテスト 優秀作決まる！

全国読売防犯協力会と読売新聞社が主催する2012年・第8回読売防犯川柳コンテストの表彰式が9月28日、東京・中央区の銀座東武ホテルで行われました。全国読売防犯協力会会長賞をはじめとする各賞の受賞者8人が出席し、表彰状と副賞が贈られました。

(1) 最優秀賞

「孤独死を救うひと声朝と夜」

24,742句の応募の中から見事「最優秀賞」の栄冠を勝ち取ったのは、さいたま市在住の波切幸治さん（会社員・64歳）の一句でした。少子高齢化が加速する我が国では、2008年から毎月人口が減少する一方、独居老人が増加し、孤立死・孤独死が大きな社会問題になっています。読売センター（YC）のスタッフは配達や集金業務の際に高齢者へひと声かけるよう努めていますが、波切さんの一句はそんなスタッフの姿を17文字で簡潔的確に表現しています。

(2) 29歳と86歳 ～十七文字に込めた防犯の心得～

今回の優秀作品受賞者の最年少は29歳の松永智文さん、最年長は86歳の木下昭一さんでした。2人の年齢差は、なんと57歳。応募者全体の年齢構成を見ても、孫から祖父母までの幅広い年齢層から作品が寄せられました。

松永さんの作品は「万引きに手を汚させぬ親の愛」（人賞）。新米パパの子供への強い責任感と深い愛情がうかがわれます。一方、木下さんの一句は「泣き寝入り暴力団の思うツボ」（天賞）。長い人生経験をもとに、「知らぬふり」「見て見ぬふり」という無関心が犯罪を助長すると訴えています。

★YCの積極的な防犯活動が「まちの安全」を創造します★

YCスタッフが業務で動く時間帯と、侵入窃盗の犯行時間帯は重なる部分が多いので、YCスタッフによる積極的な防犯活動は「地域の安全」に大いにつながります。これからも「まちの安全」のため、よろしくご協力ください。

- ①**空き巣狙い** 最も多い犯行時間帯は、午後2時から4時頃。薄暮時に部屋の明かりがついていない家も狙われやすいと言われます。
- ②**忍び込み** 深夜2時から4時が発生のピーク。泥棒は家人に気づかれると刃物などで脅す強盗に豹変する可能性のある怖い犯罪です。
- ③**居空き** 家人が在宅中に侵入する犯罪です。家族一人ひとりが独立した部屋を持つようになってから、この犯行が増えたと言われます。昼間から宵のうちまでの時間帯に多く発生しています。

※上記犯罪の発生件数は曜日による差はほとんどないようです。しかし、下見をした曜日・時間に犯行に及ぶ行動パターンを持つ犯人がいます。防犯知識として頭の中に入れておくことも大切でしょう。